

GCOE ワーキングペーパー

京都大学における男女共同参画に資する調査研究 6

## 京都大学非常勤職員のワークライフバランスについてのインタビュー

山根 実紀

(京都大学大学院教育学研究科博士後期課程)

菊地 夏野

(名古屋市立大学大学院人間文化研究科准教授)

小林 千夏

(京都精華大学共通教育センター / 京都大学大学院農学研究科博士後期課程)

村上 潔

(立命館大学衣笠総合研究機構研究員)

2012年2月



京都大学グローバル COE

「親密圏と公共圏の再編成をめざすアジア拠点」

Global COE for Reconstruction of the Intimate and Public Spheres in 21st Century Asia

〒606-8501 京都市左京区吉田本町 京都大学大学院文学研究科

Email: [intimacy@socio.kyoto-u.ac.jp](mailto:intimacy@socio.kyoto-u.ac.jp) URL: <http://www.gcoe-intimacy.jp/>

## アブストラクト

本研究は、大学内外で議論されている、非常勤職員の労働と生活の問題に着目した。多くの大学は、いまや過半数が非常勤職員および派遣職員で支えられている現状にある。それらの労働条件については3～5年の雇用上限期間などが適用され不安定な雇用状態となっているが、その実態が明らかにされた調査や先行研究は乏しい。

そこで、①時間雇用・有期雇用の非常勤職員には、なぜ圧倒的に女性が多いのか。非常勤職員は「家計補助的」女性労働というジェンダー化された社会通念によって説明されてきた。非常勤で働く男性も増加している近年、まず非常勤職員の生活設計の実態を調査し、その社会通念や説明の妥当性を検証する必要がある。②大学でも非常勤職員は、待遇格差がある一方で、非常勤とは生き方の選択肢の一つであるかのような見方も根強い。しかし、当事者は、それを望んでいるのか。本研究では、有期雇用のもたらす生活設計への影響の大きさにも着目した。

以上の問題意識をもとに、研究方法としては、大学をフィールドに置き、非常勤職員への質問紙調査とインタビュー調査を通して、非常勤職員特有の労働形態と生活や価値観との関連、それへの影響を把握しようとした。また、先陣的に非常勤職員への実態調査に取り組んだ X 大学教職員組合の協力を得て、X 大学の非常勤職員の組合員および当事者へのグループインタビューを実施した。

2010年度京都大学における男女共同参画に資する調査研究「京都大学非常勤職員のワークライフバランスについてのインタビュー」（研究代表：山根実紀）による成果である。

【メンバー】（ ）内は2010年度プロジェクト時点

山根 実紀（京都大学大学院教育学研究科修士課程）

青 山 薫（神戸大学大学院国際文化学研究科准教授）

菊地 夏野（名古屋市立大学大学院人間文化研究科准教授）

小林 千夏（京都精華大学共通教育センター / 京都大学大学院農学研究科博士後期課程）

村 上 潔（日本学術振興会特別研究員）